



Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticano © 転載許し済
©1980 精道教育促進協会(代表)三二・三四五二 芦屋市船戸町12-1-6

教皇様の叢

いろいろな問題解決の鍵

ほんとうの愛

家庭と家族

十月十二日、ローマに集う数多くの家庭運動代表者とシノドスに参加する大司教、司教に向って、教皇様は次のように話された。

(…多くの貴重な証言すべてについて話すことのできないのは残念です。しかし)二組の若い婚約者たちの話に触れないわけにはいきません。彼らは婚姻の準備をするにあたって物質的な面よりも精神的な面を遙かに大切にしてい

たからです。また私は幾多の証言中にとりわけ強く主張されていた点、つまり、貞潔が愛の成長と発展にいかにか大きな力をもっているかに強く心を打たれました。現代の放任主義社会が性の「自由」を人間の完成に必要な要素であると声を大にして叫ぶとき、沈着寛大に欲を抑えた結果、相互理解と真の自由を発

見した人々の声が聞かれるのはまことに当を得ていると考えたからです。

さらに私は多数の夫婦の次のようなことばに接し、よろこびにたえません。「夫婦の愛は当然のこと隣人愛にも向かうはずである。理解と忠告、有形の援助を必要とする人々に愛を向けなければならない。このように利他的な面はまことの愛の一部分をなすものであって、第三者に与えられたからといって、貧しくも弱くもならず、かえってより富んだ愛、活き活きとした強い愛になる。」

神に出会う愛

とにかく大勢の人たちの経験が紹介されました。そのとき私は、いずれの証言にも共通する一点に気づきました。それは、婚姻の失敗、配偶者や子供の死、戦争などという最も悲劇的な場合も含めて、問題解決の鍵はすべてほんとうの愛にあるという事実であります。まことの愛、死よりも強い愛以外にそのような問題の解決策はないと、みなさんはおし

やったのです。

人間の愛は脆くて厄介なものである。どなたも程度の差こそあれ、この事実を認めておられます。愛が枯れることなく生き続けるためには、自分を越えなければならぬのです。神に出会うような愛でなければ、途中で自分を見失ってしまうでしょう。それぞれ異なる立場からでありましたが、大勢の人々は、神との語りあい、つまり祈りが生活のなかでいかに重要であるかを証言されました。おのおのの経験をふりかえってみると、神のみ顔を通してしか、愛する人の本当の姿を再発見する道のない場合があるといわれたのです。

以上はほんの数例であります。今日わたくしたちの兄弟姉妹方が聞かせてくださった美しい証言です。私たちはたいへん感謝しております。お話をうかがった今、豊かになったと感じることができるようです。

秘跡のもつ計り知れない恵みによって堅実に生きる努力を続けている人たちから、私たちが学ぶべきことは非常に多いことに気づきます。そこで、以下、いま私たちが拝聴した証言の跡を追って、対話を進めるようなつもりで、若干わたくしの考えを述べてみたいと思います。

家庭を信頼しよう

まず第一に、キリスト者の家庭に対する信頼を取りもどす必要があると申しあげたい。嵐の吹きすさぶなかで、被告の立場に立たされているかのように感じるキリスト者の家庭は、次々と、落胆と自信喪失、恐れに陥っています。今こそ私たちは真に確信に満ちた声で言わねばなりません。家庭にはこの世界で果すべき使命と場が与えられているのみならず、そのために必要な、すばらしい手段があり、永続的な価値が付与されていると。

ここでいう価値とはなにかなく霊的、宗教的なレベルのもので、家庭の源であり、礎

として偉大な秘跡があります。復活されたキリストが活き活きと現存されているし、家庭のなかに存在するのです。しかもそれは尽きることのない恩寵の源でもあります。

また自然のレベルに属する価値もあります。家庭が曇りを感じる時には照らし、弱くなれば力づけ、消えかければふたたび燃えさせた元気づける価値のことで、具体的には、愛と忠実、相互扶助と不潔消性、最も深い意味での豊かな実り、さらに、自分を人々に開放

■貞潔は愛の成長と発展に大きな力をもつ ■婚姻の準備は精神面から

する結果、夫婦がより親密になってゆくこと、社会の細胞であるという自覚などがあげられます。

家庭こそこのような諸価値の名譽ある管理者であり伝播者なのです。それが、キリスト者の家庭となれば、さらに特別の意味で管理と伝播の責を負うと言わなければなりません。家庭は今のべたような諸価値のおかげで、そもそも土台から固められ、社会全体のあらゆるレベルでより動的、効果的な働きができるようになるのです。

ところで、家庭はこのような価値を信じなければなりませんし、堂々と勇気を出して、それらを宣言し、心静かに実行すると共に、人々に伝え広めなければなりません。

一人では戦えない

第二に私は次のように考えます。現代世界

に生きる家庭の「苦難」が色々な形をとって広がれば広がるほど(この点について多くの証言がありました)、家庭に対する「同情」もより普遍的にならねばならないということ。

こんにちの家庭はどのような苦しみを受けているのでしょうか。もちろん、貧しい国々や富める国の貧しい地域で家庭は苦しみを受けています。劣悪な労働・雇用条件、ひどい衛生環境や住宅事情、食糧難、また教育面においても、家庭は苦しんでいます。しかし、苦しみはこれだけではありません。裕福な家庭でさえも、他の種類の苦しみからは免れていないのです。たとえば、婚姻に対する大きな責任をになう準備がなされていないこと、家族の成員相互の誤解、子どもたちの不良化などをあげることができそうです。

このように種類の異なる多くの困難に対処しようとするれば、一人の人間や一つのグループだけの力だけでは到底手に負えないことは明らかです。そこで、すべての人々の一致した協力が要求されます。教会と国家、両者の中間にある諸団体、その他多くのグループがそれぞれの分野において責任をもって、家庭を効果的に守ってゆかなければならないのです。とくに大切なのは配偶者各自の献身であります。そしてこの各自の献身と努力が実を結ぶためには、夫婦が初めから家庭がもつ根本的な価値について同じ考えをもっているか、あるいは途中からでも同じ見解を分かちあうよう努めなければなりません。

家庭運動

第三の考えはキリスト者の家庭と教会が与えるべき司牧上の援けについてであります。

つい最近のこと、いろいろな証言に耳を傾けていて、証言ひとつ一つの内容と特別の陳情に心をうたれましたが、実はそれだけではありませんでした。それらすべてが現に家庭生活を営んでいる夫婦の方々、信徒の方々の

証言であることにいたく感動したのでした。この点は、教会の対家庭司牧にとって非常に意義深い事実であると思われまます。

そう言った意味で私は家庭運動の大切さについて触れておきたいと思えます。数多くおこなったこれら運動は教会の不滅の生命力、司牧の創造性のしるしであると言えます。(…) こういった家庭のための運動には感謝の念をもたざるを得ません。みずからの活動範囲を広げるべく努力を傾け、現代の複雑な社会情勢と社会問題から顔をそむけず、より強力に、より巧みに、より深く、家庭のために役だとうとしていくからです。ところで次のような希望を述べておきたいと思えます。それは、運動の力に頼らず、従って運動の原動力である霊感、つまり根本的な着想を忘れて、単なる活動にしてしまわないようにとい

夫婦は初めから家庭がもつ根本的な価値について同じ考えをもっているか、あるいは途中からでも、同じ見解を分かちあうよう努めるべき。

う願いであります。いくら賞讃にあたいます活動であれ、単なる活動に墮してしまふなら、総体的となり、運動ひとつ一つの特長を失ってしまうことでしょう。

たとえ正当で合法的であっても社会的な面に心を奪われて、家庭運動が誤った社会問題対策に墮するようなことになれば、教会レベルの運動としての固有な意味を失ってしまいます。

家庭運動は、小教区という教会の根本的な構造を考え、小教区内に統合されていないか

ぎり、十分な働きをすることはできません。この点については私が昨年、『要理教育についての使徒的勧告』で述べた、「キリスト信者にとって小教区は今なお、より密接な関係で結ばれる場である」ということを思い起こしていただきたいと思います。小教区は、よく調整された司牧活動を手段として、家庭の善、家庭の安寧のために働かなければなりません。と同時に、家庭は小教区を支える使命をもっているわけですから、万人に神のおことばをもちたらし、神の国建設に尽力しなければならぬのです。

家庭の霊性

最後にお聞き願いたい考えは目に見えない分野についてであります。数にあらわすことのできる事柄ではありませんが、何をさてお

いてとまでは言わなくても、最も重要な点の一つであることは確かなのです。それは、すでに推察してくださったでしょうが、家庭の霊性についてであります。すべて家庭について考えることがらは、家庭の根本であり、頂点であるこの霊性という一点に集中されなければなりません。事実、キリスト者の家庭は婚姻の秘跡において誕生します。しかるにこの秘跡は他の秘跡同様、神が人間の存在のただなかに率先して介入されることをあらわします。また婚姻の秘跡は、家庭という生ける

細胞を産みだし、その細胞でキリストの体である教会を作り上げる目的をもっているのです。家庭とは何であるかを正確に理解しようとすれば、家庭の一員それぞれを拘束する神のよびかけ、および、神に向って巡礼を続ける信者一人ひとりの、信仰と救いの共同体における応答、を考えねばならないでしょう。とは言うものの、キリスト信者の場合には、家庭に固有な要素のなかにすでにこの二点を内蔵し、かつ実行しています。夫婦愛、両親と子供間の愛、相互理解、赦しあう心、相互扶助、子供の教育、仕事、よろこび、悲しみ、これらすべてのなかにさきほどの二点は含まれている、つまり、キリスト者の婚姻においては、これら諸要素が秘跡の力と恩寵に包みこまれており、またそこで進展してゆきます。そして、主の尊顔を求めながら、福音を伝える道となり、キリスト教的愛徳の学舎となるのも、実はこれら諸要素にほかならないのです。

さて、家庭生活には家庭生活に独特の、福音実践方法があります。それを学び、実行に移すことは、すなわち婚姻と家庭の霊性を十全に実行することになります。現代のように試練と希望の時代にあつては、日々多くの家庭が日常生活のなかで健全な家庭の霊性をみつけ、実行することがとくに必要でしょう。家庭運動に参加するしないにかかわらず、キリスト者の夫婦が学識ある牧者に導かれつつ、婚姻と家庭の真の霊性に関する主要点を広めるよう努力することは、今日とくに必要であり、摂理にかなうことであると信じます。家庭の安定を保ち、家庭の役目を完全に果たすために、また落ち着きと活気、利他の態度、家庭のよろこびとあわせをみいだすためにも、キリスト者の家庭はこのような霊性を必要とします。キリスト者の家庭はまことの霊性を身につけるために助けを必要としています。今回の

説教・講話・書簡等の抄訳

シノドスがこの点についても関心を寄せていることは私たち全員にとってよろこびのもとであります。

あなたがたは孤立していない

わたくしが特に大切だと考えた点は以上です。あとはみなさま方にお任せしますから、個人的に、また配偶者と一緒に話しあい、より深い省察を加えて、みなさま方自身の結婚生活、家族生活に役立つ結論をひきだしてくだされば幸いです。よろこびや困難、種々の必要をもつキリスト者の家庭は見捨てられた

孤独な存在ではないことを決して忘れないでください。大きな共同体ではなく皆さんの家族がみなさまの家庭と歩みを共にしております。キリストの命令に従って、みなさんの牧者と司教、そして教皇である私もみなさん方のことを考え、司牧的配慮を怠ることなく、主の愛のうちにお祈りしているのです。(…)

神の御力によって家庭が強められますように。神の法と恩寵と愛が家庭を導いてくださいますように。地のおもてが家庭において、家庭のなかで、新たにされますように。

(一九八〇年十月十二日、パウロ六世ホールにて)

学生のみなさん

キリストをみつめなさん

カトリック教育の目的

なぜ教会はカトリック教育を重要視しているのだろうか。簡単に答えるなら、あなたがたにキリストを伝えたいからなのです。

キリストを知る——これこそ教育の原点、人生に意義を与えるものだからです。言葉や服装、膚の色で差別せず、あなた方と周りの人々や、方々に住んでいるあらゆる人々を気づかったださる方、つまり友としてのキリストを知ることこそ大切なのです。

それ故カトリック教育の目標は、あなた方にキリストを伝えること、また、教えを受けたあなた方が人々にキリストの良き香を伝えることのできるよう助けることにあるのです。あなたがた自身の将来について責任をとるべきときが近づいています。そして、間もなく人生の進路を左右する重要な決断を迫られる時が訪れるでしょう。その時の決断にキリス

トの姿が映しだされているなら、あなた方への教育は成功したことになります。

キリストはいのちそのもの

キリストのご受難と復活の恩恵の力を借りて私たちは危険や挑発に對しどのように対抗すべきであるかを学ばなければなりません。カトリック教育の役割はどのようにして人々の必要を見抜き、またどうすれば信じることを勇敢に実行できるかを教えることにあります。人生のあらゆる場面においてキリストの生き方に従って生きるよう教えるのです。そう、教会があなたがたにキリストを伝えるのは、あなたがたに、完全な人であられると同時に神のおん独子であられるキリストにおいて、成熟して欲しいからです。

愛する皆さん、わたしたちは共に教会の構成員ですから、真実の愛と充実した人生はただキリストにおいてのみ見つけ出せると確信

専用保存ファイル発売中!



ポリプロピレン機筒製
金文字装丁

『教皇様の声』を3年分保存できる専用ファイルができました。御希望の方は下記へお申込み下さい。
定価 500円(送料別)

(財)精道教育促進協会
芦屋市船戸町12-6

しています。ですから、キリストを注視するようお勧めしたいのです。

あなた方が自分はいったい何者だろうと自問するときにはキリストをみつめなさい。キリストこそ人生に意義を与えるお方ですから、円熟した人とはどういう意味であるかを自問するときもキリストをごらんください。主は完璧な人間性の所有者でいらっしやいますから。そして、世界の将来や祖国を考えて何が自分の役割かを自問するなら、そのときもキリストをごらんください。キリストこそ人間性そのものであらせられるからです。キリストにおいてのみ、あなたがたは、国民として、また世界の一員としての力を発揮できるからです。

あなたがたの役割は 信仰をあかしすること

カトリック教育のおかげで、あなた方はキリストについての知識というすばらしい賜物を受けました。聖パウロはこの賜物に関して次のように述べています。「じつに、主イエズス・キリストを知るといふすぐれたことに比べれば、その他のことは何によらず損ずるもおもう。私はかれのためにすべてを損ずる。そしてキリストを得るためには、すべて

が芥だと思ふ。(フィリッピ3・8)

キリストについての知識というこのすばらしい賜物をうけたいま、つねに神に感謝しなさい。また同時に、両親と教会に対しても感謝を忘れないように。多くの犠牲を払ってキリスト教教育を可能にしてくれたからです。あなた方に大きな希望を託す大勢の人々は、諸君がキリストの証人となり、福音を伝えることを待ち望んでいます。教会も世界も、キリストを必要としています。それゆえあなた方を必要としているのです。あなた方はキリストに留まっていますから。そこで私は、教会における責任、キリスト教教育を受けた者の責任を担えとお願ひしたい。言葉と、それ以上にあなた方の生き方で福音の教えをひろめて欲しいのです。この責任を全うするにあたって、公正忠実で純粋な人になる努力のみに終らず、祈りを大切にしてください。

愛する皆さん。諸君は、真正正銘のキリスト教的な生活と生き活きとした宗教生活を送り、それによって、信仰を証するよう召されているのです。なかでもただひとつの模範は幾千の言葉に優ります。ですから、イエズス・キリストは神であること心から告白するその信仰を日々の生活の営みのなかで行ないにあらわさなければならぬのです。(一九七九年十月三日)

不変の教え

要理教育と福音の最初の知らせ

要理教育は、回心に導いた最初の福音の知らせとは別なもので、その特徴は二重の目的をもっていとるところにある。すなわち、心に生まれた信仰を成熟させるため、そして、イエズス・キリストの人格とその教えについてのより深く、より体系的な認識を通して、キリストの真の弟子を育成するためである。

しかし、このような教育法が最善ではあるにしても、日常の教育実践に当たっては、しばしば最初の福音宣教がなされていないと言ふ事実を考慮に入れる必要がある。実際、第一幼児期に洗礼を授けられた児童の中には、まだ信仰の手ほどきを受けてなく、またキリストのはっきりした人格的結びつきもなく、ただ洗礼と聖霊の現存による信仰の能力だけをもって、小教区の要理教育に与るものがある。あるいはまた、さほどキリスト教的でない家庭で受けた偏見といわゆる「実証主義」的教育のために、初めから少なからざる抵抗を感じるものがある。このほかに、親が子どもに、洗礼を授けられないままの子どももいる。このため、このような子どもは洗礼志願期の大部分は、実際的な理由で、しばしば、普通の要理教育のコースで行われることになる。次に、青年および青年期に達したもので、洗礼を受け、組織的な要理教育と秘跡は受けたものの、自分の自由をたてに、宗教教育を避けようとしなくても、イエズス・キリストのために生きることを久しく躊躇するものも少なくない。最後に、大人自身も、とくに不信仰の生活環境のために、疑問を抱き、あるいは信仰を放棄する誘惑から全く安全ではない。従って、要理教育は、しばしば、単に信仰を養い、教えるだけではなく、恩寵の助けによって不断にそれを目覚めさせ、心を開き、回心させ、まだ信仰の入り口に在るものには、イエズス・キリストに全く帰依するよ

うに仕向ける必要がある。このような配慮によって要理教育の調子と用語と方法が規制される。

要理教育の特殊な目的

要理教育の特殊な目的は、芽生えればかりの信仰が、神の助けによって成長し、それぞれの年齢の信者のキリスト教的な生活が完成に導かれ、日毎に養われるようにすることである。聖霊から蒔かれ、洗礼によって有効に伝えられた信仰の芽が認識と生活の面で成長するようにすることである。

それで、要理教育の目的は、みことばの光の下にキリストの秘義の理解を深め、人間全体がその光に照らされるようにすることにある。キリスト信者は、恩寵の働きで新しい被造物に改造され、こうして、キリストの弟

『要理教育に関する使徒的勧告』第三回 教会の司牧的かつ宣教的活動における要理教育

子となり、教会において日毎によりよく、キリストのように考え、キリストのように判断し、その掟に従って行動し、その招きに従って希望することを学ぶ。

もっと正確に言えば、要理教育は、福音宣教の活動全体の中で、教育し、成熟させる段階、すなわち、キリスト信者が信仰を通して、イエズス・キリストを唯一の主と認め、真の回心によってキリストに全く帰依してから、自分が身をゆだねたこのキリストをさらによく知ろうと努めるところにある。それは、キリストの秘義、つまり、キリストが告げられた神のみ国、その福音に含まれている要求と約束、ご自分に従うものに示された道を知ることである。

それで、キリスト信者であることがキリストに同意することと同じであるとすると、私

たちは、この同意が二つの理由でなされることを考えなければならない。すなわち、神のみことばに身をゆだね、それに留まるためだけになく、このみことばの深い意味をますますよく理解しよう努めるためである。

体系的要理教育の必要

教皇パウロ六世は、シノドスの第四総会の閉会の談話の中で、「よく組織立てられ、筋道の通った要理教育の絶対必要性がすべてのから強調されたことを認めて」満足の意を表わした。「なぜなら、キリストの秘義そのものをそのように深めることは、要理教育を神のみことばを知らせるほかのすべての形式と全く区別するからである」

そのような授業の実際の困難に対しては、とくに、そのいくつかの特徴が強調される必要がある。すなわち、

――授業は、正確な目標に達することができ、即席的なものではなく、教案による系統的なものでなければならない。

――授業は、本質的な事柄を強調し、すべて異論のある問題に触れることも、また神学的研究や科学的解釈となることも求めない。

――しかし、この授業は、私たちがケリグマによって受けたキリストの秘義についての最初の知らせに終わることのないかなり徹底したものでなければならない。

――それはキリスト教生活のすべての要素にわたる総合的なキリスト教的入門でなければならない。

個人的、家庭的、社会的あるいは教会的な生活に於いて要理教育の多くの機会がもたれている価値――それについて論議は第六章にゆずる――を忘れるものではないが、私は組織的

かつ体系的なキリスト教教育の必要性を強調する。これの重要性が種々の方面で過少評価される傾きがあるからである。

要理教育と生活経験

正しい生活実践を正しい教理に対立させるのは空しいことである。なぜなら、キリスト教は、そのどちらも含み、二つをかたく結びつける。固く思慮ある確信が、勇ましく、正しい行動をさせるからである。しかし、今日、キリストの弟子として生活するよう信者を教育するためには、「キリストの秘義」のより深い認識を一層容易にするよう要請されている。同じように、キリストの福音の熱心な、そして体系的な研究を放棄し、その代わりに生活経験に重きを置く方法を主張するものも空しいことである。なぜなら、誰も単なる何かの経験だけで、つまり「道、真理かつ生命」(ヨハネ14・6)であるキリストの知らせの適当な説明がなければ、総体的真理に到達できないことは明らかである。

それで、生活から出発する要理教育を伝承にもとづく教理的かつ体系的要理教育に対立させることは許されない。

真の要理教育は常に、神がご自分についてイエズス・キリストにおいてなした啓示を秩序立てて、体系的に教えるものである。この啓示を教会は自分の深い記憶と聖書に保存し、生きた行動的伝承を通して絶えず世代から世代へと伝えた。そのような啓示は生活から隔離されるものではなく、また故意にそれと対立させられるものでもない。なぜなら、啓示は、人間存在の究極の意味に関するもので、福音の光でそれを理解させ、あるいは問題にさせるためにこの人間存在の全体を照らし出す。それゆえ、第二ヴァチカン公会議が、(…)

「人間および人間生活の――信仰における教育者……であるように」と言ったこの意味深い言葉は要理教師に充てることができる。

(枢機卿 里脇浅次郎 中央協議会発行)

『教皇様の声』ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのまま伝える月刊紙 毎月 十日発行 定価 一部六十円送料六十円 一年予約七百二十円送料七百二十円 二十部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替 神戸 072393